

日本工学院八王子専門学校		開講年度		2019年度（平成31年度）		科目名		からだのしくみ2			
科目基礎情報											
開設学科		柔道整復科		コース名				開設期		後期	
対象年次		3年次		科目区分		必修		時間数		30時間	
単位数		2単位		授業形態		講義					
教科書/教材		教科書は「解剖学」を持参する。その項目ごとに資料を配布する。									
担当教員情報											
担当教員		神野 宏司				実務経験の有無・職種		無			
学習目的											
人体の形態・構造の理解を目指すための学びである。受講する学生は、取得を目指す柔道整復師免許が医療資格であることを十分理解し、資格取得後に患者の患部へ施術をすることを業務とするため、人体の構造と機能を熟知する必要があるが、自らが実施しようとする施術については患者の老若男女を問わず、その性質についての理解と同意を得られなければならない。そのため学生がこの科目を受講することで人体構造について患者へよりわかりやすく説明できる人材の育成を目的としている。学生自身が将来必要とされる患者への説明技術を習得することでinformed consentの能力を向上させることがねらいである。											
到達目標											
人体の構造や機能に対する知識は、すべての医学分野の学習において欠く事のできないものといえる。人体が、どのようなしくみをもって構成されているかを調べる学問では、たとえば心臓・肺・胃・腸などが、身体の中の部分にあって、どのような形をし、どのような大きさで、内部がどのように組み立てられているかを知る。人体が、いかにして生命を維持し働いているかを調べる学問では、例えば食物が、胃・腸においてどのようにして消化・吸収され、エネルギー源になり、また血や肉になるかを知る。この科目では、人体を深く理解するうえで広範囲な人体の10系統について医療現場にて患者へ必要かつ理解しやすい説明を行える知識を習得することを目標にしている。											
教育方法等											
授業概要		教科書中心で授業を進める。人体は、多数の種類の細胞が集まってできており、同じ種類の細胞が集まると組織ができる。さらに、いくつかの組織が目的をもって集まり、ある一定の形態をそなえ働くものを器官といい、その器官が連携し協同して働くものを器官系という。人体は細胞・組織・器官・器官系という一連の仕組みで基本的に構成されていることを系統ごとに学ぶ。									
注意点		国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。									
評価方法		種別		割合		備 考					
		試験・課題		100%		試験と課題を総合的に評価する					
		小テスト		0%							
		レポート		0%							
		成果発表 （口頭・実技）		0%							
		平常点		0%							
授業計画（1回～15回）											
回		授業内容				各回の到達目標					
1回		内分泌（下垂体・松果体・甲状腺）				内分泌器それぞれの位置・重量・構造・機能ならびにその特徴について理解する					
2回		内分泌（上皮小体・副腎・膵臓）				内分泌器それぞれの位置・重量・構造・機能ならびにその特徴について理解する					
3回		感覚器（皮膚）				表皮・真皮・皮下組織について特徴や機能を理解する					
4回		感覚器（視覚器）				眼球の構造と機能ならびに眼球付属器について理解する					
5回		感覚器（聴覚器および平衡器）				聴覚器の分類とそれぞれの構造・機能ならびに平衡器の機能について理解する					
6回		感覚器（味覚器）				味蕾と味覚神経について理解する					
7回		感覚器（嗅覚器）				嗅粘膜・嗅球・嗅索・嗅覚中枢について理解する					
8回		後期7週までの振り返りと確認演習				1回～7回までの知識が蓄積されているか確認する					
9回		呼吸器、内分泌				呼吸器系・内分泌器系の役割を説明できる					
10回		体表解剖、感覚器系				体表解剖・感覚器系の役割を説明できる					
11回		泌尿器系、生殖器系				泌尿器系・生殖器系の役割を説明できる					
12回		消化器系、発生学				消化器系と人体の発生学について役割を説明できる					
13回		脈管系、神経系、				脈管系と神経系の役割を説明できる					
14回		後期13週までの振り返りと確認演習				9回～13回までの知識が蓄積されているか確認する					
15回		まとめ				半期で取得した知識の確認					